

店長談話特別号

FEATURE

渡邊 叶

八百鮮の WORK 仕事論 とは



世界を見た男が辿りついた先は、
大阪の商店街。
静かな炎は、誰よりも熱く。

八咫



VOICE



八百

店長インタビュー

／どんな店長になりたいですか？
1つ目は、みんなとコミュニケーションが取れること。なんでも言うこと聞くのはダメやし、わざと聞き流すこともあると思う。それも愛やから。2つ目は、矢印が自分に向かないようにすること。お給料や自分が目立つことじゃなくて、お客様やお店のことを常に考えていたい。今まで当たり前のことをしてきたからこの立場を任せてもらえたと思う。自分は背伸びも特別頑張ったりもしてない。当たり前のことをするって簡単そうやけど、意外とできひんねんな。

／今後のビジョンは？
今は、果物屋はいいかなあ。それよりも今は、八百鮮が大きくなるのを見届けたいし、成し遂げる一員になりたいと思う。この1個の目標を逃げずにちゃんと終わらせな、次に行っても煮え切らん気持ちになりそう。
昔は大人は裏切るやつやと思ってたけどそうじゃない大人がいるって気付いたのは八百鮮に入っす頃の頃。BOS(社長)や副社長からの愛情を感じるからこそ自分も返したい。これから愛を与え、与えられの関係でい続けたいな。こんなBOSに言えんけど。

／八百鮮に入るまでの経緯は？
学生の頃は、アメ村で遊んだり、ダンスしたりして。友人の商売も全然売れへんくてみんな困ってた時に、自分も将来のことを考えました。その時に思い出したのが、昔おばあちゃんが果物屋をやっていたこと。果物屋×カルチャーっておもしろいかも！そこでまずは仲間さんと繋がりを持つために八百屋を踏み台にしよう！と思いつ活サイトを検索しました。1番上に出てきた「果物のバイヤーになりませんか？」と書かれた八百鮮に運命を感じました。

大胆な仕入れと冷静な判断で、ゴールへの最短ルートを突き進む。淡々と話す渡邊だが、その目の奥には、揺るぎない信念が見えた。本人は自分のことを「無感情」というが、渡邊の持つ見えない熱い炎がみんなの灯火になっているのだろう。



八百鮮 空堀店

[住所] 中央区谷町6丁目17-20 1F
(空堀商店街内)
[TEL] 06-6777-5672
[営業時間] 10:00~18:00
[定休日] 日曜日、月曜日が祝日の場合連休



YAOSEN MAGAZINE

渡邊

青果部チーフ

元 NEW YORKER で元ダンサー。NY で得た、常識をひっくり返される感覚は今となれば、何にも動じることのない落ち着きを手に入れた。そんな世界を見た男が選んだのは、大阪の八百屋であった。なぜ八百屋に？彼の見つけた「道」とは。

八百鮮